

認定農業者だより Next Step

玖珠九重版 令和5年 10月
大分県西部振興局 生産流通部
T e l : 0973-23-2217
F a x : 0973-23-3473
E-mail : a11610@pref.oita.lg.jp
記事へのご意見等をお寄せください

秋の農作業安全確認運動について

実りの秋を迎える9～10月は農作業安全確認運動の重点期間に設定されています。事故防止のためにも、日頃から安全確認を強化していきましょう。

【路肩の踏み外しに注意しましょう】

令和3年の農作業死亡事故を要因別にみると、「農業機械作業に係る事故」が171人（70.7%）と高い状態にあり、そのうち「機械の転落・転倒」が半数（49.1%、84人）を占めています。転落・転倒による死亡事故のほとんどがほ場や農道で発生しており、路肩は危険が潜んでいます。

【対策】

- ①路肩が分かるように、草刈りをしたり、目印を立てたりする。
- ②前後輪の内輪差を考えて、カーブを曲がる。
- ③ほ場の出入口の傾斜方向に対し平行に侵入する。



【シートベルト & 安全フレームで

身を守りましょう】

安全フレーム・安全キャブの無いトラクターで転落・転倒事故を起こした場合、死亡につながるケースが多くなっています。

さらに、安全フレーム・安全キャブのあるトラクターでもシートベルトを着用しなければ、安全域の中に身体が固定されないため、転倒した際に身体を守ることができません。シートベルトの着用を徹底するようにしましょう。

（営農推進班 後藤）



ピーマン栽培はじめませんか

空いた畑や水田で、何か栽培したい…と考えている方、ピーマンを栽培してみませんか？興味のある方は、下記担当までご連絡ください！

【栽培について】

霜が降りるまで収穫可能です！

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
露地	← 土づくり・圃場準備						X 定植			→ 収穫												← 圃場片付け														

【10a当たりの収益性】

区分		金額等	備考
収益	生産量 (kg)	5,600	
	単価 (円/kg)	330	
	金額 (円)	1,848,000	
経費	合計 (円)	1,048,000	種苗費259千円、肥料費110千円、農薬費70千円 販売経費524千円、諸材料費85千円等
	農業所得 (円)	800,000	

【おすすめポイント】

- 1 選果機が新しくなり、コンテナのまま出荷が可能です！（持込先：玖珠中央選果場）
- 2 栽培管理が簡単で初期投資も少なく、夏秋野菜の中でも取り組みやすい作物です。

【作業について】

- 1 定植（4月下旬～5月上旬）
 - (1) 10aあたり約1000本定植でき、苗は購入可能です。
- 2 収穫（6月中旬～11月頃）
 - (1) ピーマンで最も労働時間の多い作業です。
 - (2) 収穫量がピークの8、9月は収穫4時間、出荷調整に2時間ほどかかります。
 - (3) 週2日出荷できない日があります。出荷をしない日の前日は防除を行いましょう。



【栽培圃場について】

畑・水田どちらでも栽培可能ですが、雨水だけではかん水量が足りないため、水が確保できる圃場であることが重要です。

（園芸第二班 河原）

《ご報告》九重町の白ねぎ圃場で、ドローンを利用した

防除の実証試験を行いました。

露地作物の防除は労力的に大変ですが、特に夏場の防除はどうか省力化したいものです。なかでも、白ねぎでは作付けを拡大する生産者も増えており、広いほ場を省力的に防除する技術の導入が望まれています。省力的な防除技術としては、ドローンを利用した防除が注目されており、水稻等では普及が進んでいます。一方、白ねぎにおいては、ドローンで使える登録農薬が少なく、ほとんど導入されていませんでしたが、近年、登録薬剤が増えており、導入への期待が高まっています。

そこで、西部振興局管内のドローンオペレーター組織に防除を委託する形で、技術導入に向けた実証試験を行いました。

＜実証内容＞

白ねぎ栽培ほ場におけるドローン防除実証

実施日：8月21日（月）

実証規模：70a

ドローン防除委託先：西部管内ドローンオペレーター組織

散布薬剤：ベネビア OD（殺虫剤：アザミウマ、ハモグリバエ防除）



- 当日は天候は良いが、やや風のある条件でした。
- ほ場主の方の立ち合いのもと、委託先のオペレーターの操作で防除開始。
- 風の向きも考えながら、全体に薬剤がかかるように操作されていました。
- 70aの防除に要した時間は約25分でした。

- ほ場の5か所に「感水紙」という農薬がかかると、青く反応する紙を設置しましたが、いずれの場所もしっかり薬剤がかかっていました。
- 立ち会っていただいたほ場主の方も「防除効果が変わらないなら、人手が足りない時期に委託することも検討できる」と言われていました。



（園芸第二班 大坪）

秋から冬にかけても被害対策を!

まだまだ、暑い日が続きますが、季節は確実に秋に向かっていきます。秋は「実りの季節」。この実りの季節を迎える為に鳥獣害対策を行ってきましたが、作付け、収穫は来年も続くことを忘れていませんか？

来年も引き続き、被害ゼロを目指すためには、秋～冬の被害対策がとても重要なのです。

1 電気柵について

電気は昼夜問わず 24 時間通電しましょう！

イノシシやシカは夜行性で田畑に来るのは夜だけと思っていませんか？

イノシシやシカは昼夜関係なく活動しますから、24 時間田畑を守る必要があるのです。

また、収穫後、電気柵を設置したままにするのであれば、作物が無くても通電させてください。電気の通っていない電気柵はただの紐です。このような状態にしておくと、イノシシたちは慣れてしまい、電気柵を恐れなくなるため、電気柵の効果が無くなってしまいます。

2 防護柵について

収穫後でも防護柵の門扉は必ず閉じましょう！

作物の収穫が終わった後でも、門扉は確実に閉じておきましょう。イノシシたちにとって、稲の二番穂や肥料として蒔かれた野菜クズなどは貴重な栄養源なのです。この餌を与えないように、必ず門扉を閉めましょう。

あわせて、可能であればすき込みを行えば、なお効果的です。



収穫されなかった野菜や、肥料とするために放置した野菜クズはイノシシたちにとって、立派な食料です。



3 集落の環境整備について

防護柵周辺の放任果樹を無くしましょう！

農地が電気柵や防護柵で囲われ、加害獣の侵入がなくても、その周辺に誰も管理していない柿の木や栗の木があると実が落ちて、加害獣を呼び寄せる原因になります。

収穫することのない果樹は枝を落とすか、伐採することで危険回避できます。



防護柵の外へ枝を伸ばした栗の木。柵の外側に実が落ちています。

(森林管理班 丸山)